



菊池市有機農業実施計画

令和7年度～令和11年度

令和7年3月策定

菊池市環境保全型農業推進協議会

目次

第 1 章 菊池市有機農業実施計画策定の背景	1
1-1. 菊池市の農業を取巻く環境	2
1-2. 菊池市の農業の現状	3
第 2 章 有機農業実施計画の策定方法	5
2-1. 有機農業実施計画策定の概要	6
2-2. 計画策定方法のイメージ	7
第 3 章 菊池市有機農業実施計画	9
3-1. 計画対象期間	10
3-2. 目標年（5年後）に目指すべき姿	10
3-3. 有機農業実施計画の施策の内容	10
3-4. 有機農業実施計画の推進体制（案）	12
3-5. 資金計画	12
3-6. 本事業以外の関連事業の概要	13
3-7. みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について	13
3-8. その他（達成状況の評価、取組の周知等）	13
〈参考資料〉有機農業実施計画に関する調査	15
4-1. アンケート調査（生産者/消費者）	16
4-2. 消費者向け聞き取り調査（道の駅）	29

第 1 章 菊池市有機農業実施計画策定の背景

1-1. 菊池市の農業を取巻く環境

菊池市は平成 17 年 3 月 22 日に旧菊池市、菊池郡七城町、旭志村、泗水町が合併してできた「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」である。東部は阿蘇市、南部は大津町や合志市、西部は熊本市、山鹿市、北部は大分県日田市にそれぞれ接している。北部は八方ヶ岳から東部の阿蘇外輪山まで山岳が連なっており、地域の大半を森林が占めている。それら山岳からの豊富な水が菊池川をはじめとして迫間川、河原川、合志川に流れており、菊池平野を潤し、肥沃な土地を形成している。

豊かな水資源と肥沃な大地を生かした農業を基幹産業としており、特に畜産においては、西日本有数の産出額を誇っている。耕種においても「菊池米・水田ごぼう・イチゴ・メロン・かすみ草・乾しいたけ、ヤーコン、菊芋」などの高品質な農産物が豊富にあり、一部はブランド化され県内外に出荷されている。中でも「七城のこめ」は、日本穀物検定協会の食味ランキングにおいて最高評価である「特 A」を 11 年連続で獲得しており、米・食味分析鑑定コンクール国際総合部門では最高賞の金賞を受賞した。農業生産の特徴としては、中山間地と山間地では、果樹（栗、梨、柿）や茶のほか畜産が盛んであり、平坦地では、水稻を中心に麦や竜門ダムのかんがい用水を利用した野菜、花き、飼料作物などの作付けが行われている。

環境保全型農業の推進では、農林畜産物のさらなるブランド化・高付加価値化を目的とし、くまもとグリーン農業制度に市独自の基準を加えた「環境王国菊池農業生産基準」を設けており、また環境保全型農業直接支払交付金事業では、令和 4 年度実績で 85 戸 24,411a の環境保全型農業が実施され、そのうち有機農業は 56 戸 18,397a で取組がされている。令和 5 年 9 月に農林水産省で発表された有機農業の取組面積が大きい市町村では全国 13 位となっており、有機農業が盛んな地域である。



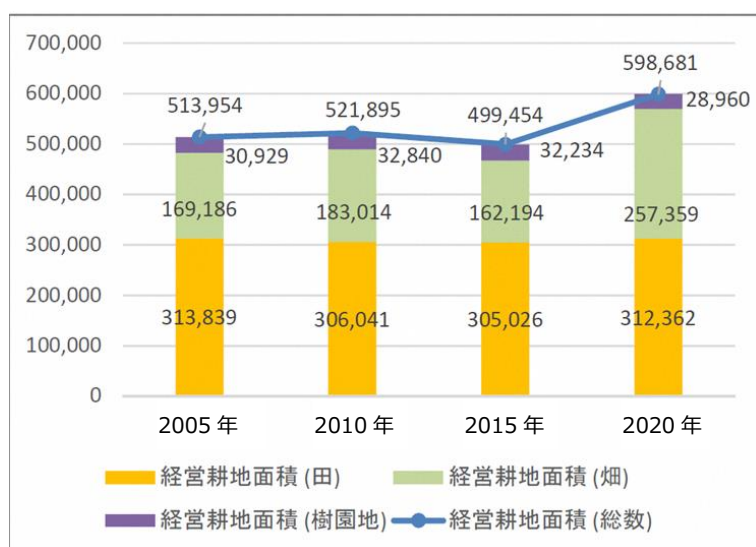
有機農業・・・有機農業の推進に関する法律(平成 18 年法律第 112 号)第二条に定義される化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として農業生産に由来する環境への負荷をできる限り提言した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。

環境王国菊池農業生産基準・・・環境に配慮した地域の確立および、環境王国菊池で生産された農林畜産物のブランド化を進めるため、1～7の基準を設け、化学農薬や化学肥料の使用回数を低減されている農産物であることを認定する基準をいう。

1-2. 菊池市の農業の現状

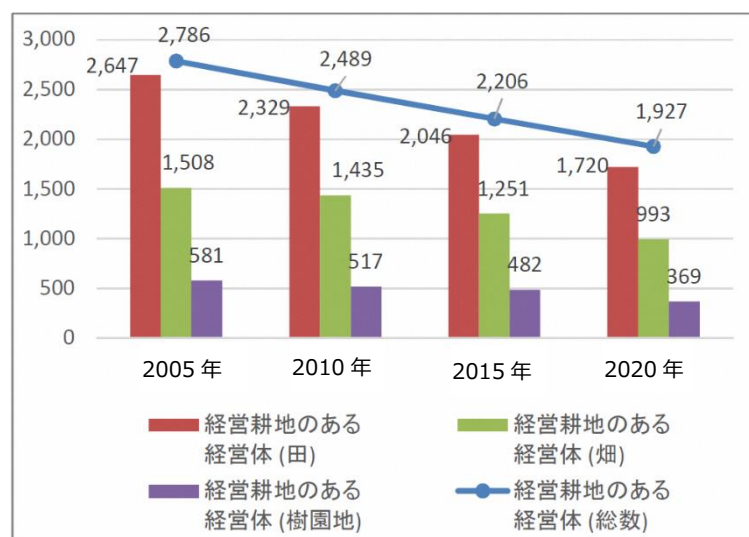
菊池市の農業経営耕地面積は2005年の5,140ヘクタールから2020年の5,987ヘクタールへ増加している。一方、経営耕地のある農業経営体数は2005年の2,786経営体から2020年には1,927経営体へ減少している。

図1【経営耕地面積（農業経営体）の推移（単位：a）】



（菊池市統計資料 2023 より）

図2【経営耕地のある経営体数（農業経営体）の推移（単位：経営体）】



（菊池市統計資料 2023 より）

菊池市の経営耕地面積 5,987 ヘクタール（出展：2020 年農林業センサスより）のうち、令和 5 年度環境保全型農業直接支払交付金事業により有機農業に取り組んでいる経営体の作付面積は 203 ヘクタール（割合：3.39%）である。

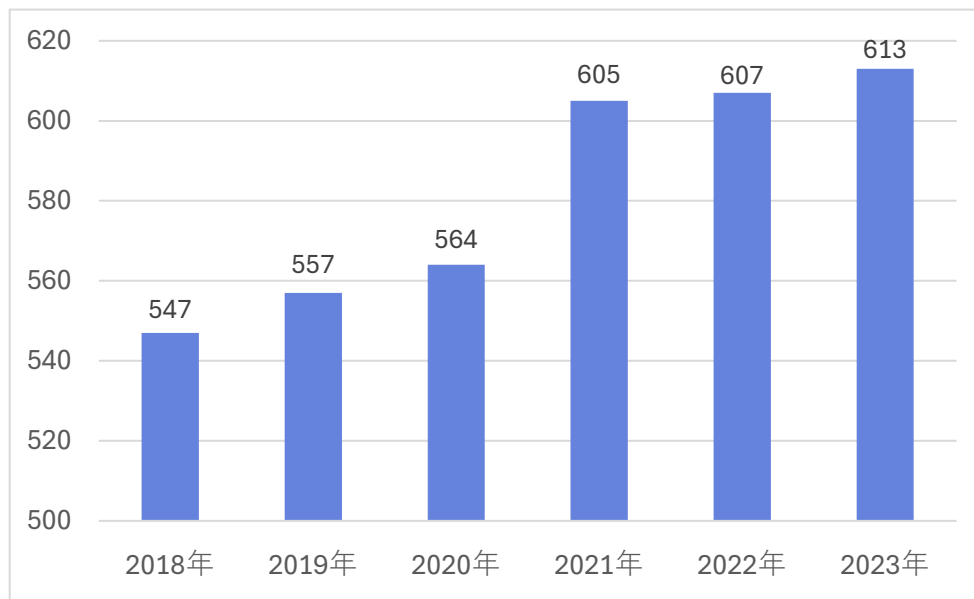
図表 3【菊池市における有機農業取組面積と割合】

経営耕地面積	うち有機農業面積	有機農業取組割合
5,987 ha	203 ha	3.39 %

（出展：2020 年農林業センサスより）

くまもとグリーン農業制度に市独自の基準を加えた「環境王国菊池農業生産基準」の登録者数は 2023 年時点で 613 事業者となっている。

図表 4【環境王国菊池生産基準の登録事業者数の推移】



（出展：菊池市統計 2023）

第 2 章 有機農業実施計画の策定方法

2-1. 有機農業実施計画策定の概要

有機農業実施計画の策定にあたっては次の方法で計画策定を行う。

(1)市内農業者向けアンケート調査

対象者：市内農業者のうち 300 名を無作為抽出。

設問内容：売上や経営面積などの経営状況、経営上の問題点、有機農業推進に対する思考など。

(2)市民向け WEB アンケート調査

対象者：市内小中学校保護者及び市役所職員

設問内容：住民の農産物消費状況、有機農業に対する意識など

(3)道の駅での消費者向け聞き取り調査

対象者：養生市場及びメロンドーム来場者 100 名（各 50 名ずつ）

設問内容：道の駅来場者の農産物消費状況、有機農業に対する意識など

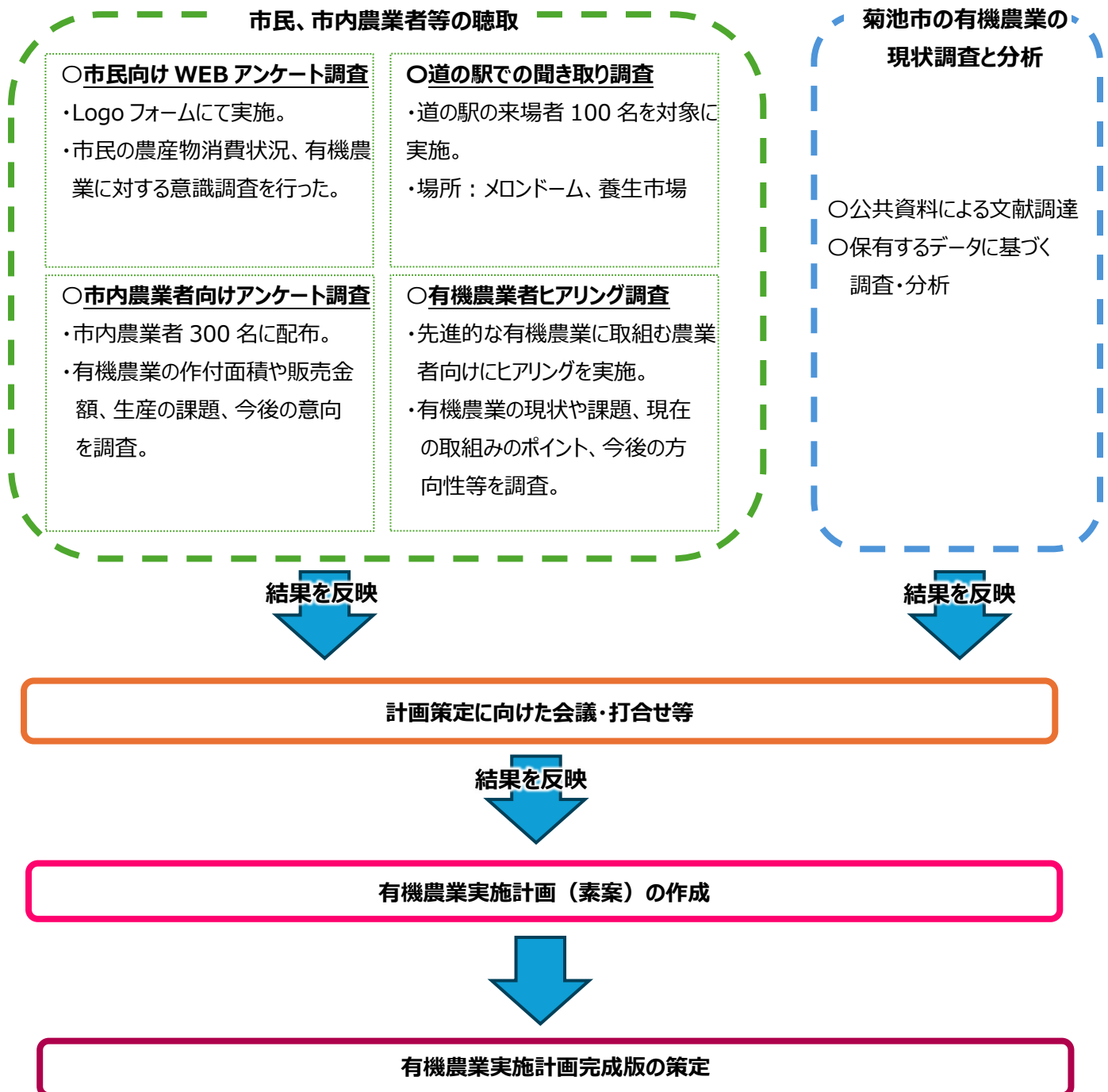
(4)有機農業者ヒアリング

菊池市内 5 事例、その他県内有機農業者 2 事例、県外 3 事例を対象にヒアリングを行い、事例集を作成する。

(5)計画策定に向けた会議の開催

2-2. 計画策定方法のイメージ

計画策定方法のフロー図



第 3 章 菊池市有機農業実施計画

3-1. 計画対象期間

本計画の期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とする。

3-2. 目標年(5年後)に目指すべき姿

市内の有機農業面積※ 令和5年度 203ヘクタール→令和11年度 278ヘクタール

※環境保全型農業直接支払交付金事業の有機農業面積より把握

3-3. 有機農業実施計画の施策の内容

有機農業の生産段階の推進の取組

取組	内容
新規就農者確保、人材育成	研修会等を開催し、有機農業に関する技術向上を図る。
	菊池農業高校と連携し、生産者と消費者の顔が見える取組を行うことで、地元就農を促し、新規就農者確保を図る。
	研修会や情報発信を行い、スマート農業を推進し、農作業を効率化・省力化し、生産性の向上を図る。
有機JAS、環境王国菊池生産基準のサポート	有機JAS、環境王国菊池生産基準の普及啓発を行い、環境王国菊池生産基準登録者の増加を図る。
	菊池米食味コンクールにおける菊池基準部門を継続し、生産技術の向上を図る。
	普及啓発を行い、堆肥施用の推進を図る。

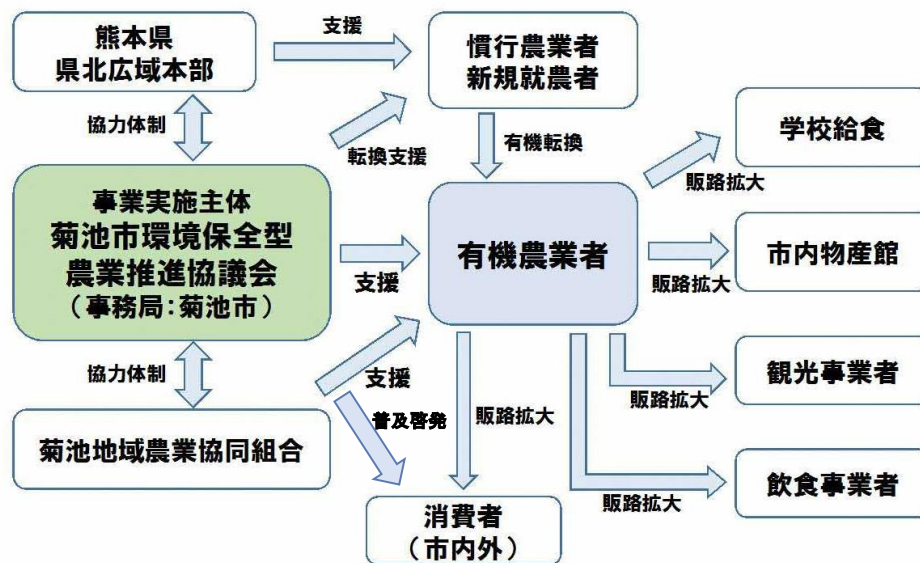
有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組

取組	内容
学校給食での有機農産物利用拡大	市内小中学校、幼稚園・保育園へ有機米・有機野菜を提供することで、有機農業の理解促進を行い、利用拡大を図る。
	農業高校や協定学校と連携した普及啓発を行い、有機農業の推進を図る。
市内での販売・利用拡大	道の駅等市内店舗にて有機農産物販売コーナーを設置し、消費拡大と有機農業への理解促進につなげる。
消費者への有機農業理解促進	学校での食育授業を実施し、有機農業への理解を広げる。
	消費者向けの有機農業交流イベントを開催し、有機農業への理解促進を図る。
	市内有機農産物取扱店マップの作成し、消費拡大を図る。

その他の取組

取組	内容
市との協定に基づく取組	農業の普及、振興等に関する協定を締結している協定先と連携し、有機農業の推進を図る取組を行う。
市内飲食店や宿泊施設等との連携	市内の飲食店や宿泊施設等と連携して市内の有機農産物を市民、及び観光客に提供することで販路拡大と消費者への理解促進、地産地消につなげる。
既存イベントとの連携	市が主催または、後援するイベントにおいて、有機農業理解促進を図る取組を行う。

3-4. 有機農業実施計画の推進体制(案)



3-5. 資金計画

(単位：千円)

		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
生産段階の取組	農業経営講習	200	200	国、県、本市の関連事業等を活用して有機農業の推進を図る。	国、県、本市の関連事業等を活用して有機農業の推進を図る。	国、県、本市の関連事業等を活用して有機農業の推進を図る。
	スマート農業利用促進	300	300			
	有機堆肥利用促進	200	200			
流通、加工、消費等の取組	学校給食有機農産物提供	3,000	3,000			
	有機農産物特設コーナー	1,000	500			
	有機農業交流イベント	3,000	1,700			
	有機農産物取扱店マップ作成	300	100			

3-6. 本事業以外の関連事業の概要

○環境保全型農業直接支払交付金事業

環境保全型農業の普及推進を図ることを目的とし、化学合成肥料や化学合成農薬を 5 割以上の低減を行うなど、地球温暖化防止、生物多様性保全等に効果が高い営農活動に関する取組を支援する。

○菊池産特別栽培米学校給食提供事業

菊池産特別栽培米を学校給食で提供することにより、より安全で安心な学校給食の提供に努めるとともに、菊池基準の農産物のブランドの確立及び、消費拡大を目指す。

○新規就農支援

農業担い手確保・育成を目的とし、専業農家として就農された方に対し、新規農業就業奨励金・結婚祝い金を交付する。

○農業次世代人材投資事業

経営が不安定な収納直後の支援や収納意欲の喚起を図るため、独立・自営就農者に対して年間最大 150 万円を最大 3 年間交付する。

○移住定住推進事業

若者世代への移住及び定住の推進を図るため、菊池暮らし体験ツアーの開催、空き家バンク制度の充実により、移住の支援を行う。

3-7. みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について

熊本県と県内 45 市町村と共同で策定した熊本県みどりの食料システム基本計画に基づき、本計画と連携する中で有機農業の推進を図る。

3-8. その他(達成状況の評価、取組の周知等)

市が把握する情報、環境保全型農業直接支払交付金事業のデータや農業関係者への照会により状況を把握し、菊池市環境保全型農業推進協議会において事業達成の評価を行う。

菊池市ホームページ内のオーガニックビレッジ構想について集約したサイトや SNS 等を活用し、本市での取組や関連情報を発信していく。

〈参考資料〉 有機農業実施計画に関する調査

4-1. アンケート調査(生産者/消費者)

今回、市内の有機農業の現況を把握するため、2つのアンケート調査を実施した。

- (1) 市内農業者向けアンケート
- (2) 市民向け WEB アンケート調査

以下に各々の調査結果をまとめる。

(1) 市内農業者向けアンケート結果

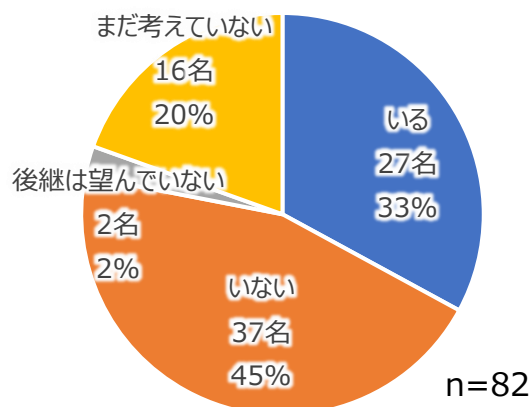
①市内農業者向けアンケート概要

調査目的	本調査は、市内の生産者の現況等を把握し、環境保全型農業を推進するにあたっての施策等の検討材料とするために実施。
調査対象者	菊池市在住の農業経営者（300 先）
調査期間	令和 6 年 9 月 2 0 日（金）～令和 6 年 1 0 月 4 日（金）
調査方法	郵送による発送・回収
有効回答数	82 件
回収率	27.3%

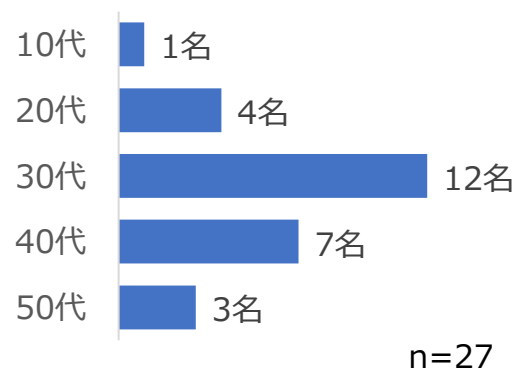
②後継者の有無と後継者の年代について

後継者が「いる」と答えたのは 82 名中 27 名の 33%であった。そのうち、後継者の年代内訳では「30 代」が最も多く 12 名であった。

【後継者がいるかどうか】



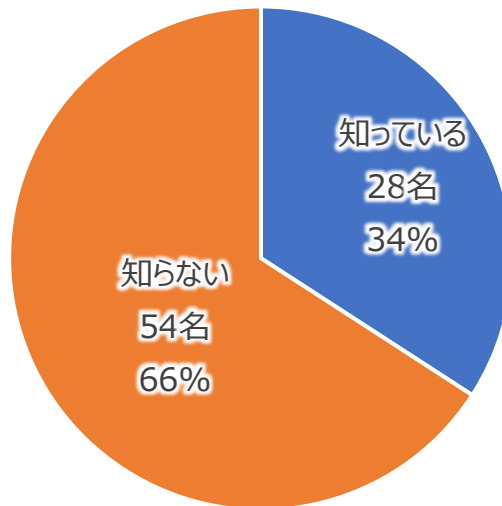
【後継者の年代内訳】



③「環境王国菊池農業生産基準（菊池基準）」の認知度について

環境王国菊池生産基準を知っているかという質問に対しては、「知らない」と答えた人が 66%と過半数という結果になった。

【環境王国菊池農業生産基準の認知度】

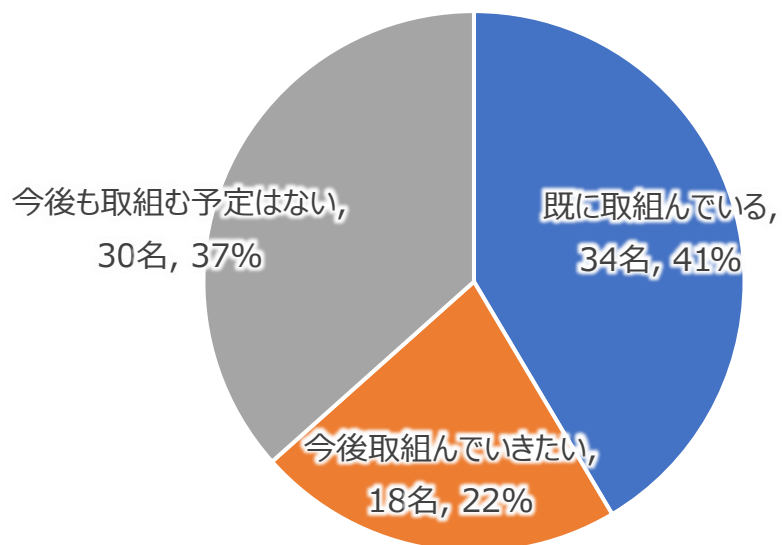


n=82

④有機農業に対する取組状況について

有機農業への取組状況は、「すでに取組んでいる」が 34%、「これから取組みたい」が 22%、「取組む予定はない」が 37%という結果になった。

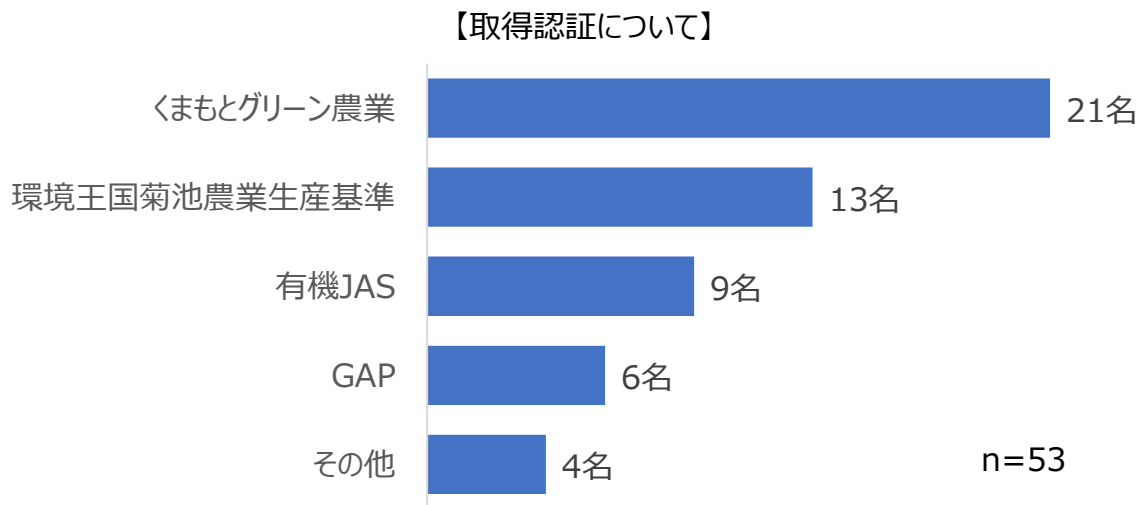
【有機農業に対する取組み状況】



n=82

⑤取得認証について

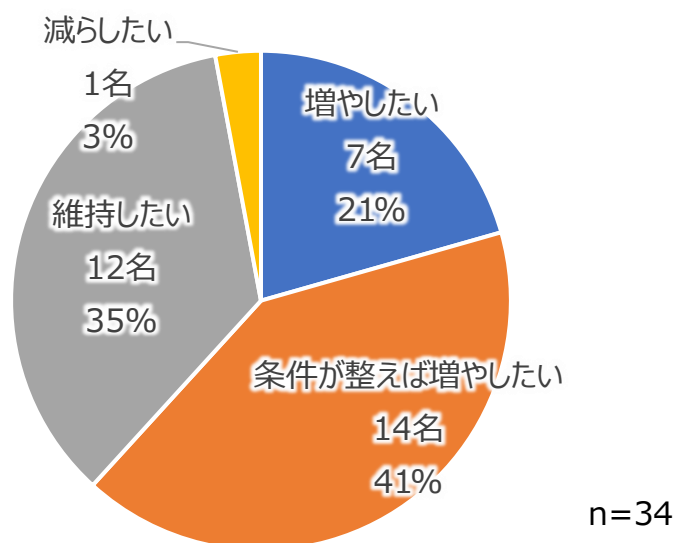
取得している認証については、くまもとグリーン農業が最多の 21 名であった。



⑥有機農業の取組規模拡大について

有機農業に取り組んでいる人のうち、有機農業取組規模について、「増やしたい」と考えている人が過半数いる。

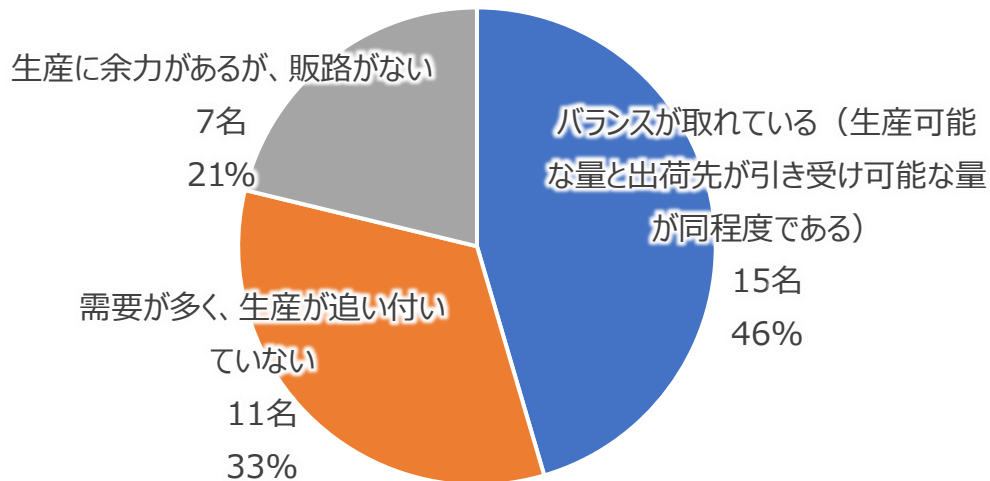
【有機農業取組規模に対する意向について】



⑦現在の販路における需要と供給のバランスについて

有機農業に取り組んでいる人のうち、現在の販路における需給バランスは、「バランスがとれている」と回答した人が15名、「生産が追い付いていない」と回答した人が11名、「生産に余力はあるが、販路がない」と回答した人が7名であった。

【現在の販路における需給と供給のバランスについて】

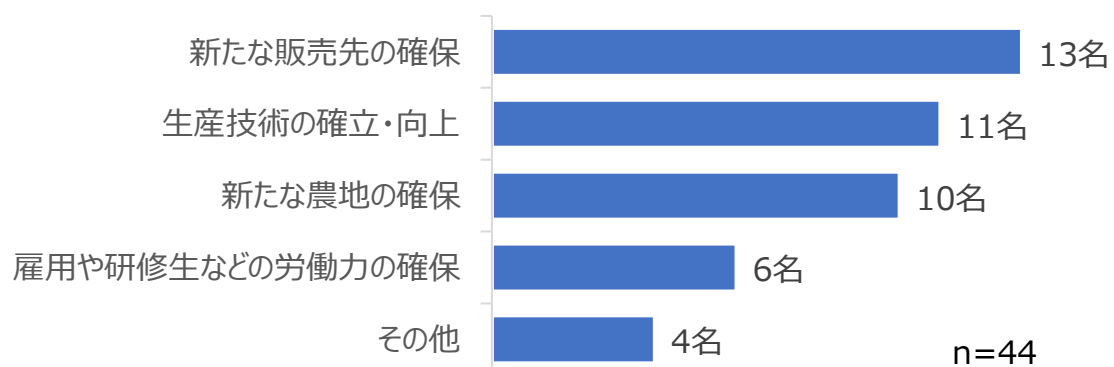


n=33

⑧有機農業の取組規模を増やすのに必要な条件について

有機農業の取組規模を拡大したいと回答した人のうち、どのような条件がそろえば拡大するか尋ねたところ、一番多かったのは「販売先の確保」であった。その他意見として、「機械化」や「価格の向上」、「農地の集約」などが挙げられた。

【取組規模を増やすのに必要だと思う条件について】

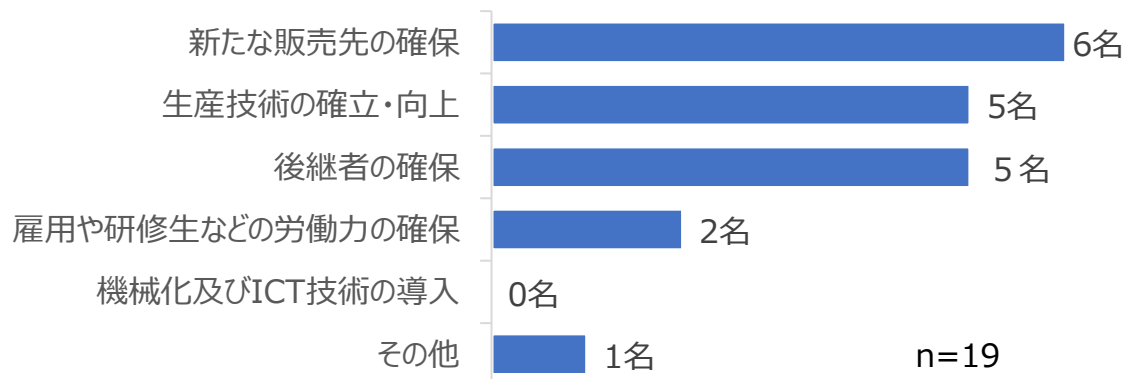


n=44

⑨有機農業の取組規模を維持するのに必要な条件について

有機農業の取組規模を維持したい、減らしたいと回答した人のうち、維持するのに必要な条件について尋ねたところ、「拡大したい」と回答した人と同じような結果となった。その他の意見としては、「有機農業のメリットがわからない」、「異常気象」を懸念する意見があった。

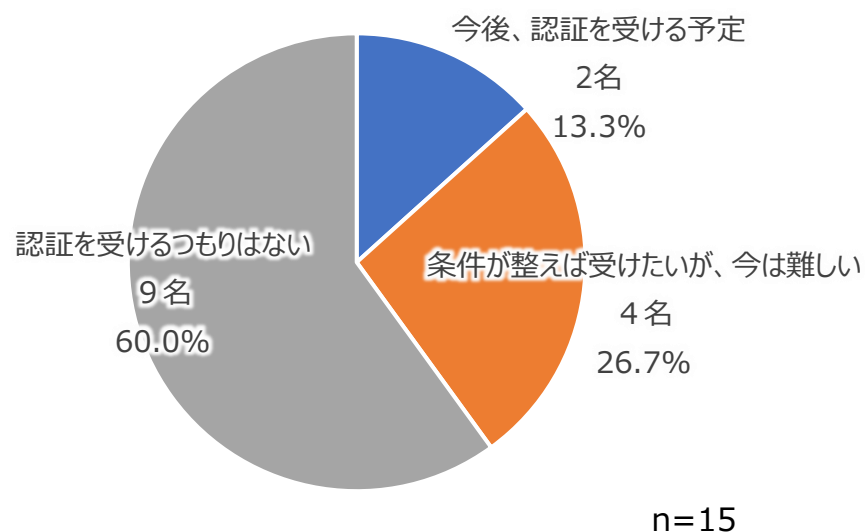
【取組規模を維持するのに必要だと思う条件について】



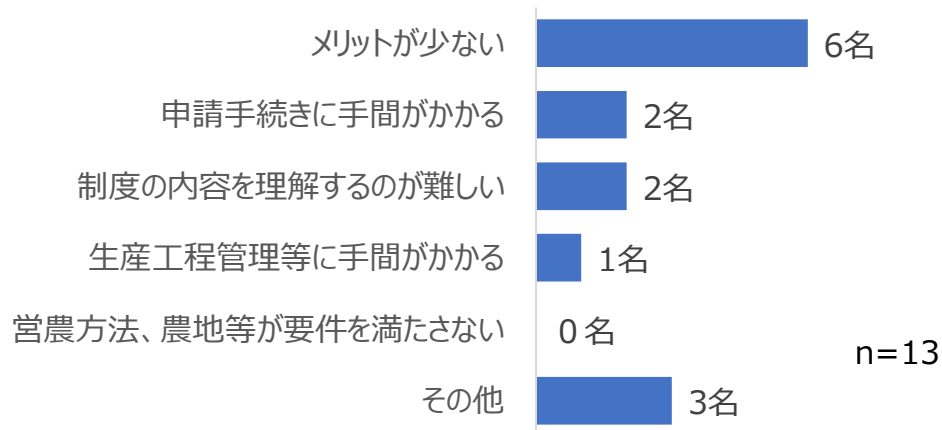
⑩菊池基準の認証を受けることについて

菊池基準の認証を受けていない方へ、今後の認証に対する意向を尋ねたところ、「受けるつもりはない」と答えの方が60%であった。その理由として、「メリットが少ない」が最も多かった。

【今後、認証を受けることに対する意向について】



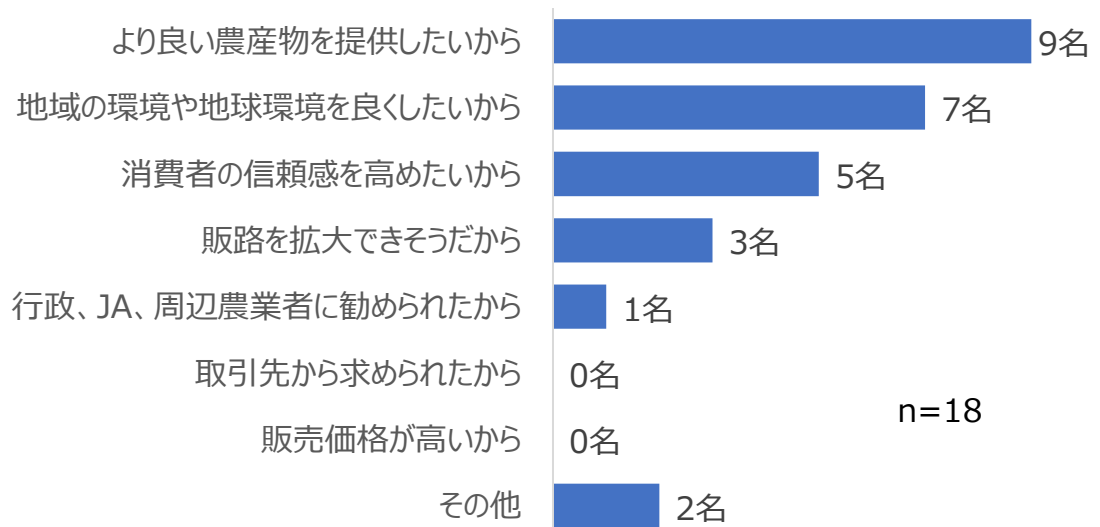
【今後、認証を受けることが困難な理由について】



⑪ 今後、有機農業に取り組もうと考えている理由について

今後、有機農業に取り組みたいと答えた方へ、その理由について尋ねたところ、「より良い農産物を提供したいから」という理由が最も多かった。

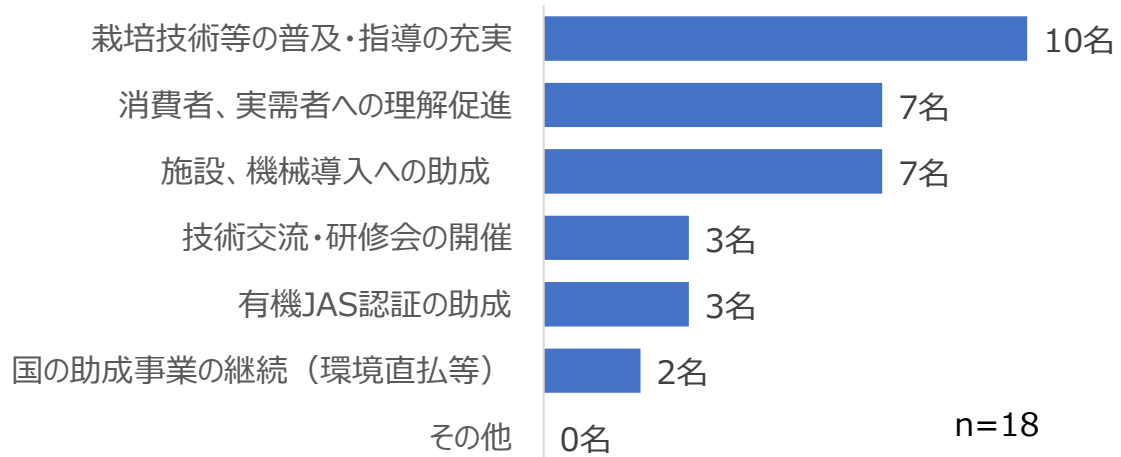
【今後、取り組もうと考えている理由について】



⑫有機農業を始めるにあたり、行政に望むことについて

今後、有機農業を取組むにあたり行政に望むこととしては、「栽培技術の普及・指導の充実」が最も多く、次いで「消費者、実需者への理解促進」、「施設、機械導入への助成」という結果であった。

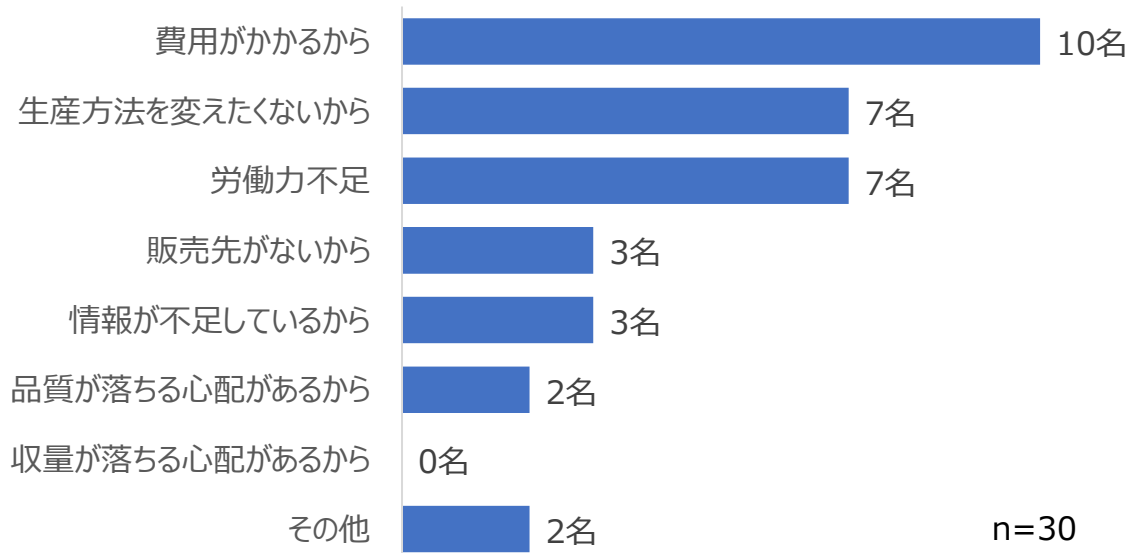
【今後、取組むにあたり行政に望むこと】



⑬有機農業への取組を検討されていない理由について

今後、有機農業を取組む予定はないと答えた方へ、その理由を尋ねたところ、「費用がかかるから」が最も多かった。

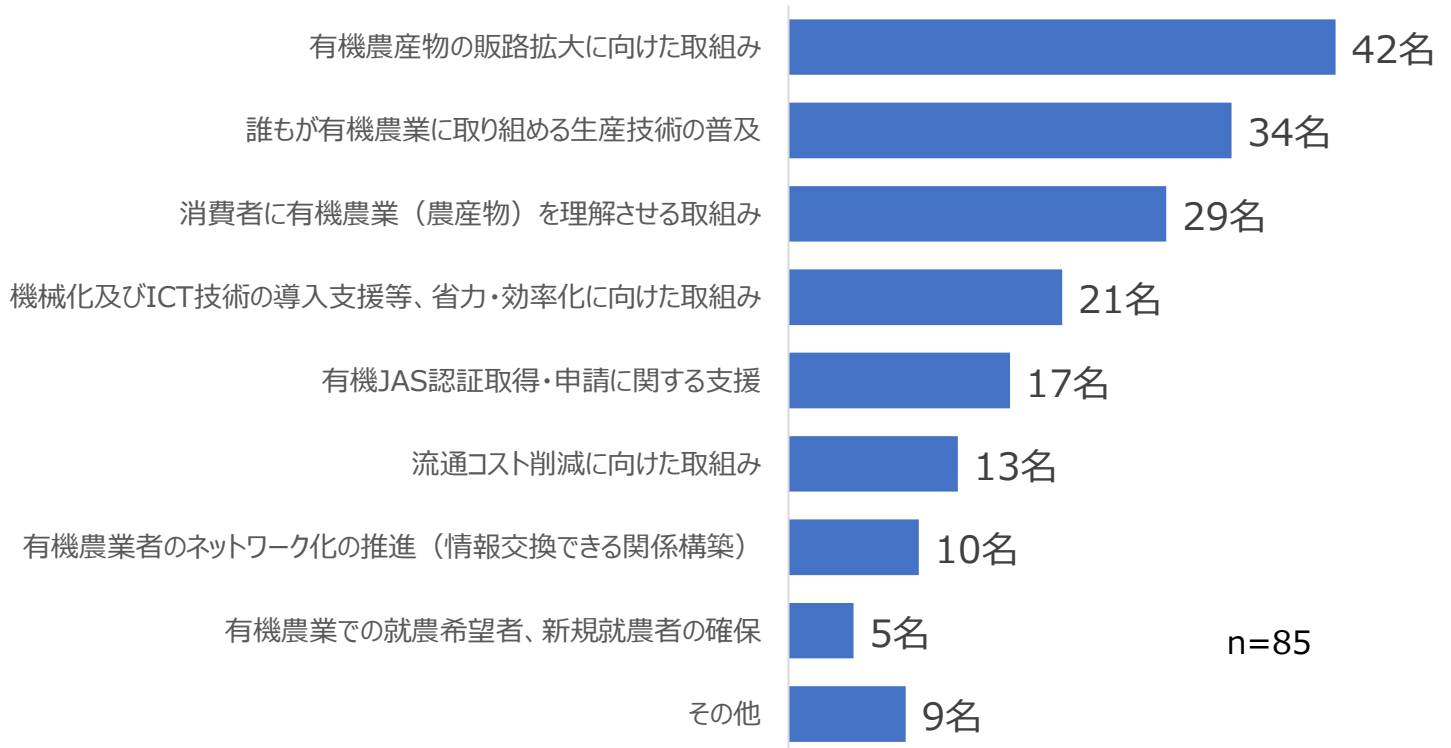
【今後、有機農業を取組む予定はない理由について】



⑭有機農業の推進に向けてどのような方策が必要か

全ての生産者の方を対象に、今後の有機農業の推進に向けてどのような方策が必要かを尋ねた。最も多かったのは「販路拡大に向けた取組」、次いで「誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及」、「消費者に有機農業を理解させる取組」という結果であった。

【今後、有機農業の推進に向けてどのような方策が必要か】



（２）市民向け WEB アンケート調査結果

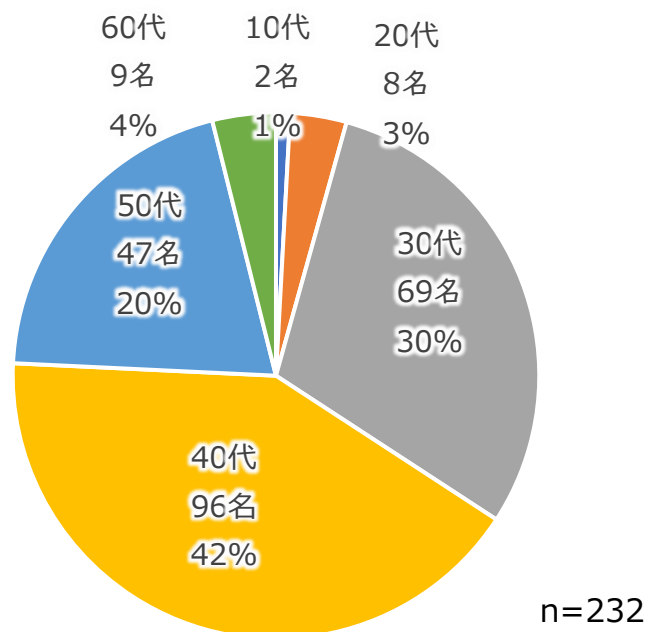
①市民向け WEB アンケート調査概要

調査目的	本調査は、市内の農作物の消費の現況等を把握し、有機農業に関する施策の参考とするために実施。
調査対象者	菊池市内小・中学生の保護者、菊池市役所職員
調査期間	令和 6 年 9 月 5 日（木）～令和 6 年 1 0 月 7 日（月）
調査方法	Logo form によるインターネット調査
有効回答数	232 件

②回答者の年代について

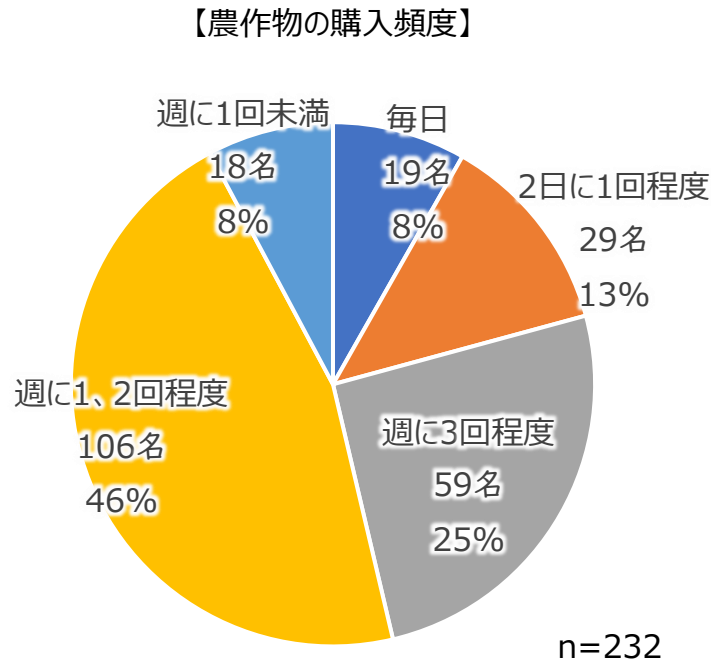
回答者の年代をみると、「40 代」が 42%と最も多く、次いで「30 代」が 30%、「50 代」が 20%となっている。

【回答者の年代】



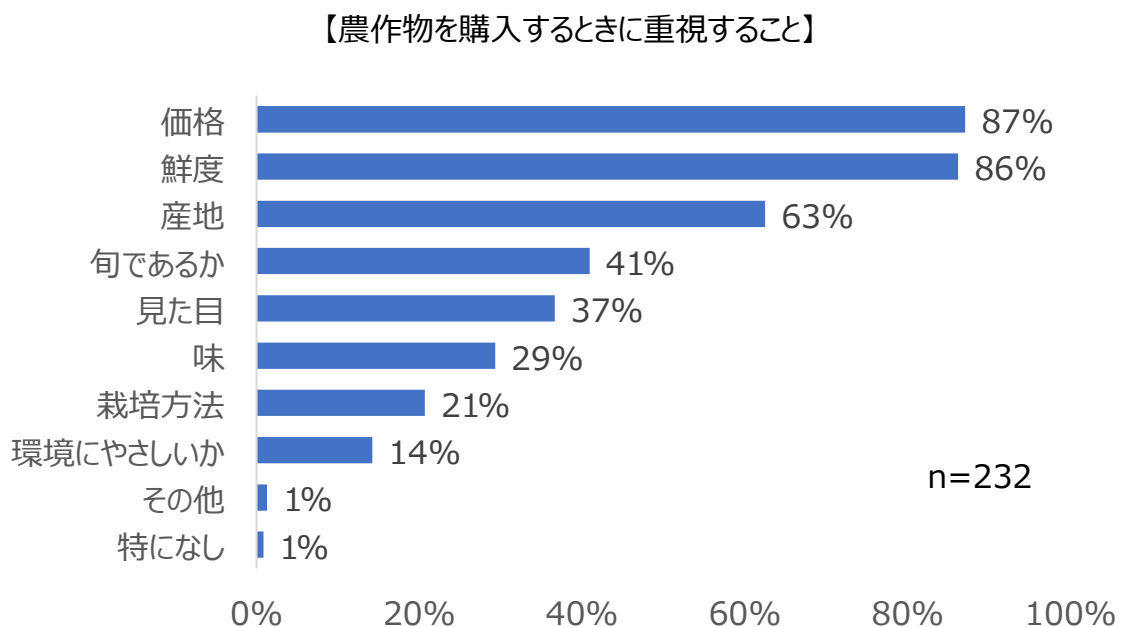
③農作物の購入頻度について

農作物の購入頻度についてみると、「週に 1、2 回程度」が 46%と最も多く、次いで「週に 3 回程度」が 25%、「2 日に 1 回程度」が 13%となっている。



④農作物を購入するときに重視することについて

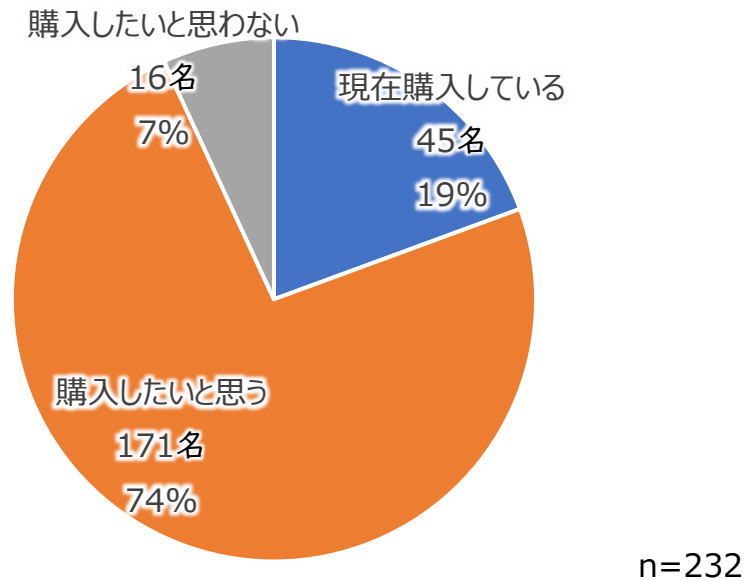
農作物を購入するときに重視することについてみると、「価格」が 87%と最も多く、次いで「鮮度」が 86%、「産地」が 63%となっている。



⑤「環境にやさしい農業により生産された農産物」の購入意向について

「環境にやさしい農業により生産された農産物」の購入意向についてみると、「現在購入している」と「購入したいと思う」の割合の合計が93%となっている。

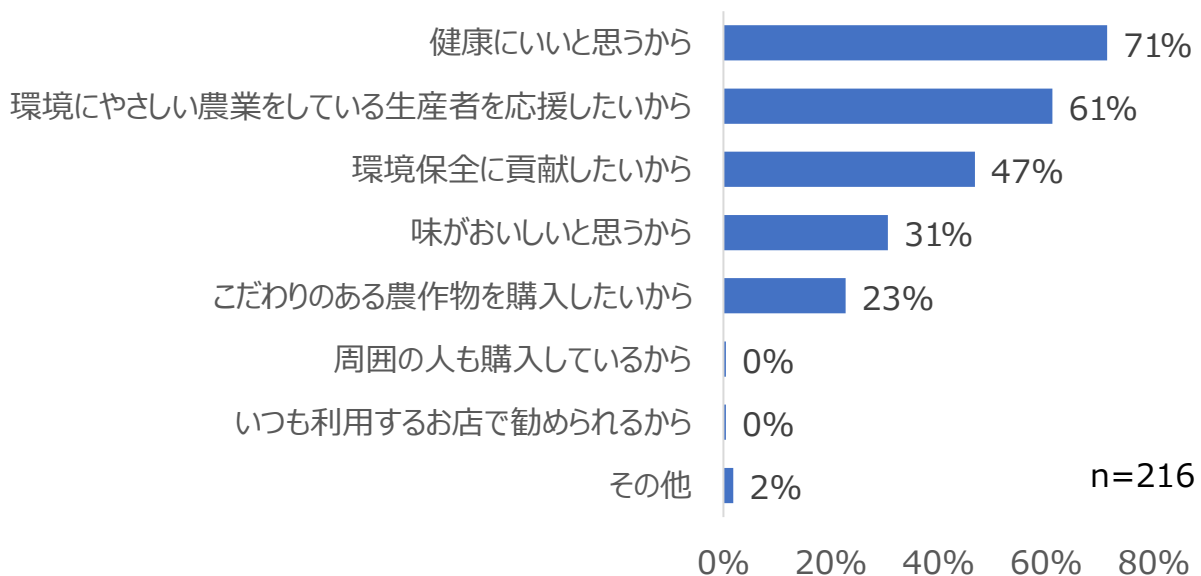
【「環境にやさしい農業により生産された農産物」の購入意向】



⑥「環境にやさしい農産物」を購入している、購入したいと思う理由について

「環境にやさしい農産物」を購入している、購入したいと思う理由についてみると、「健康にいいと思うから」が71%と最も多く、次いで「環境にやさしい農業をしている生産者を応援したいから」が61%、「環境保全に貢献したいから」が47%となっている。

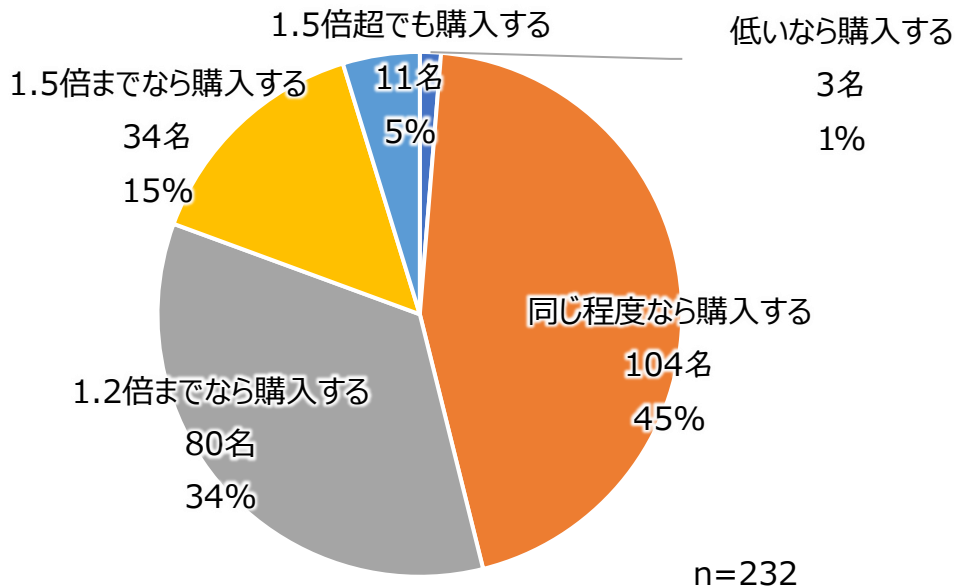
【「環境にやさしい農産物」を購入している、購入したいと思う理由】



⑦一般の農産物と比較してどのくらいの価格までなら購入するかについて

一般の農産物と比較してどのくらいの価格までなら購入するかについてみると、「1.2 倍までなら購入する」と「1.5 倍までなら購入する」、「1.5 倍超でも購入する」の割合の合計が 54%と 50%超となっている。

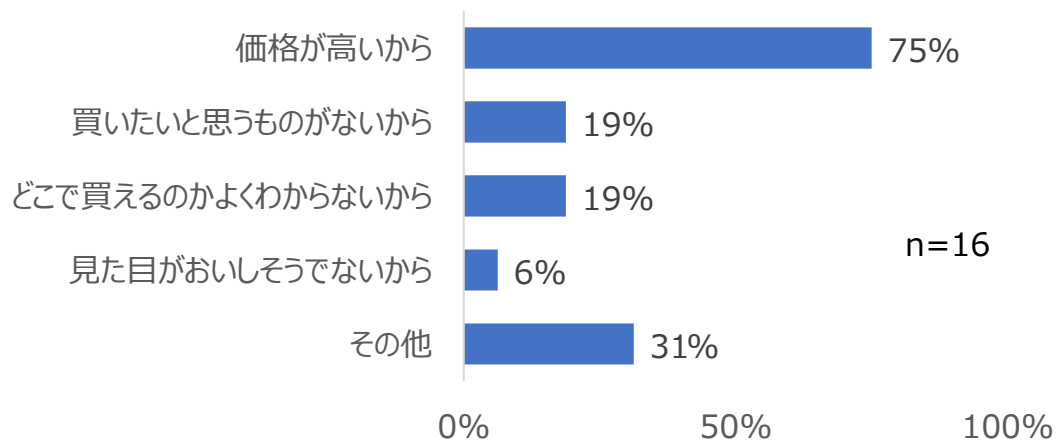
【一般の農産物と比較してどのくらいの価格までなら購入するか】



⑧「環境にやさしい農産物」を購入したいと思わない理由について

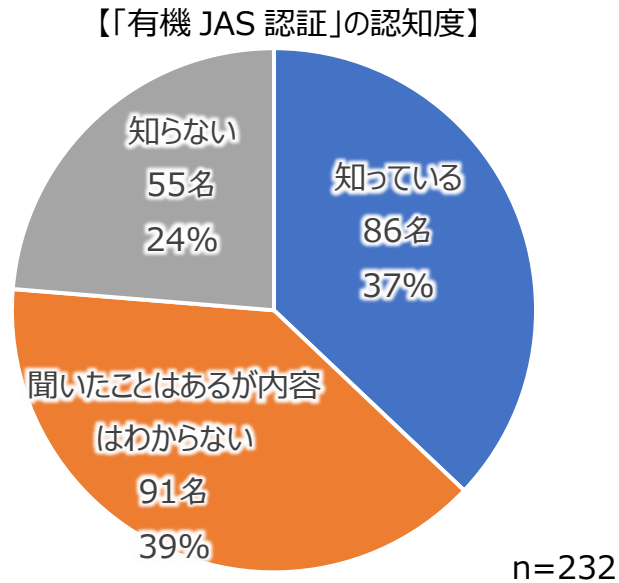
「環境にやさしい農産物」を購入したいと思わない理由についてみると、「価格が高いから」が 75%と最も多く、次いで「買いたいと思うものがないから」、「どこで買えるのかよくわからないから」が 19%となっている。

【「環境にやさしい農産物」を購入したいと思わない理由】



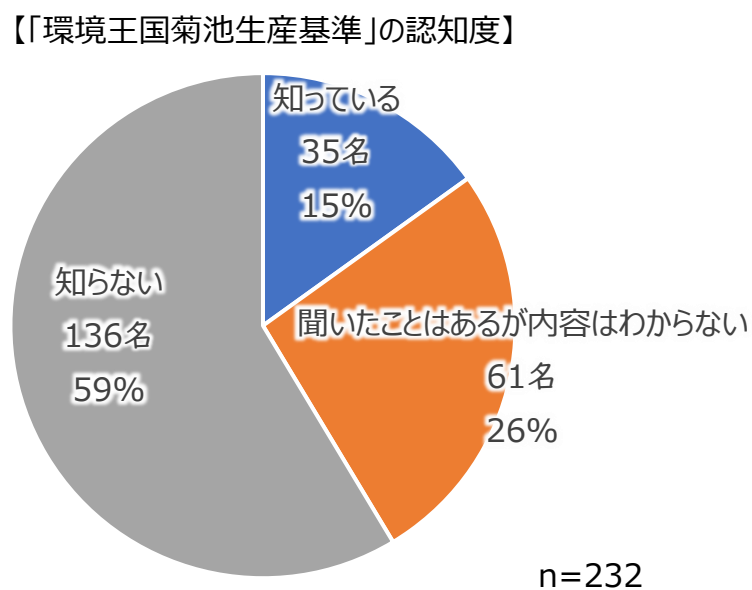
⑨「有機 JAS 認証」の認知度について

「有機 JAS 認証」の認知度についてみると、「聞いたことはあるが内容はわからない」が 39%と最も多く、次いで「知っている」が 37%、「知らない」が 24%となっている。



⑩「環境王国菊池生産基準」の認知度について

「環境王国菊池生産基準」の認知度についてみると、「知らない」が 59%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容はわからない」が 26%となり、「知っている」は 15%にとどまった。



4-2. 消費者向け聞き取り調査(道の駅)

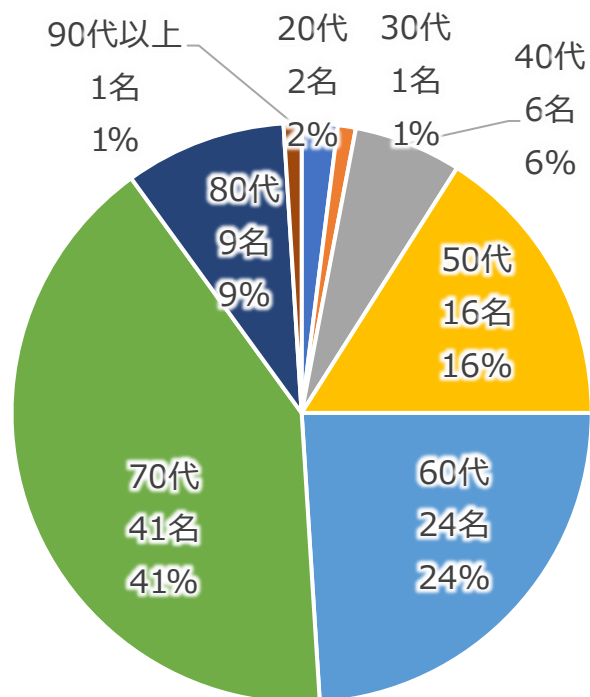
①道の駅での聞き取り調査概要

調査目的	本調査は、市内の農作物の消費の現況等を把握し、有機農業に関する施策の参考とするために実施。
調査対象者	道の駅（メロンドーム、養生市場）への来場者（各 50 先）
調査期間	令和 6 年 1 0 月 1 1 日（金）：メロンドーム 令和 6 年 1 0 月 1 4 日（月）：養生市場
調査方法	聞き取り調査（設問は消費者向け WEB アンケートと同じ）
有効回答数	100 件（メロンドーム 50 件、養生市場 50 件）

②回答者の年代について

回答者の年代をみると、「70 代」が 41%と最も多く、次いで「60 代」が 24%、「50 代」が 16%となっている。

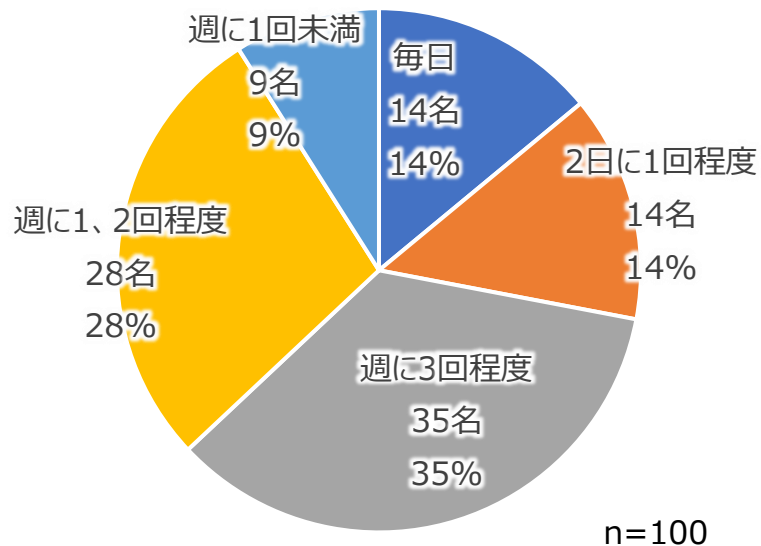
【「環境王国菊池生産基準」の認知度】



③農作物の購入頻度について

農作物の購入頻度についてみると、「週に3回程度」が35%と最も多く、次いで「週に1、2回程度」が28%、「毎日」、「2日に1回程度」が14%となっている。

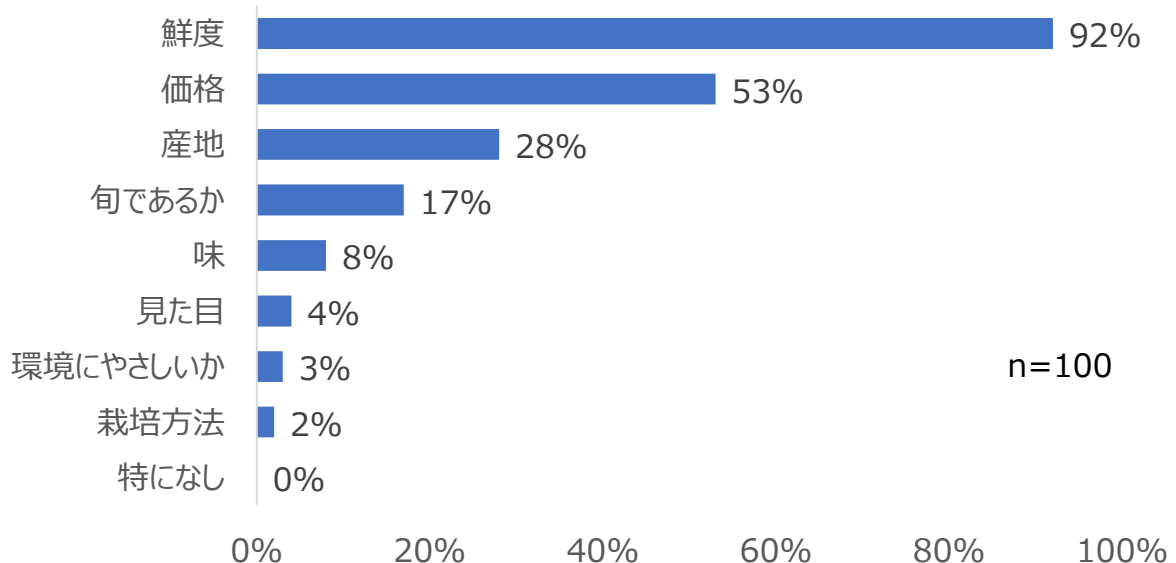
【農作物の購入頻度】



④農作物を購入するときに重視することについて

農作物を購入するときに重視することについてみると、「鮮度」が92%と最も多く、次いで「価格」が53%、「産地」が28%となっている。

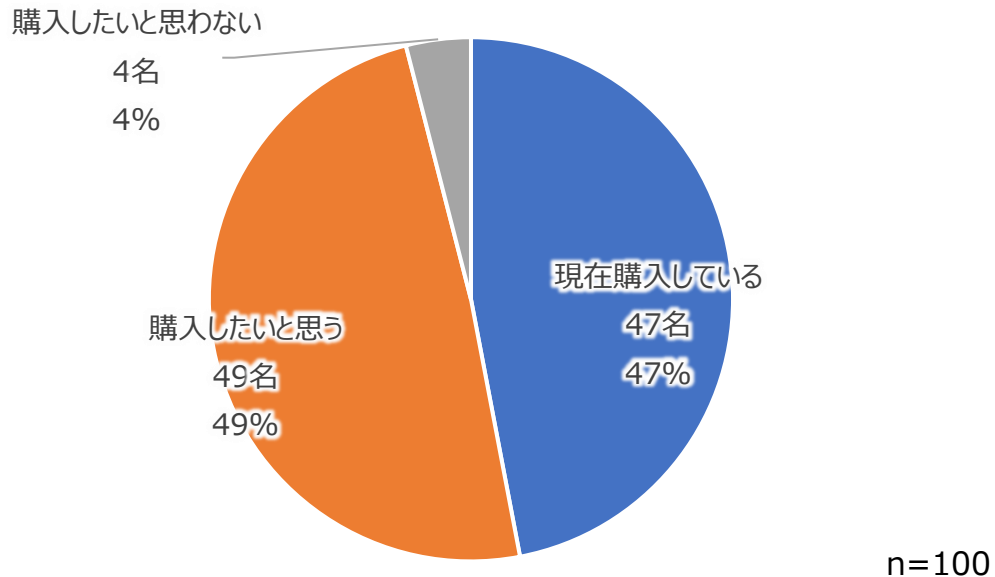
【農作物を購入するときに重視すること】



⑤「環境にやさしい農業により生産された農産物」の購入意向について

「環境にやさしい農業により生産された農産物」の購入意向についてみると、「現在購入している」と「購入したいと思う」の割合の合計が96%となっている。

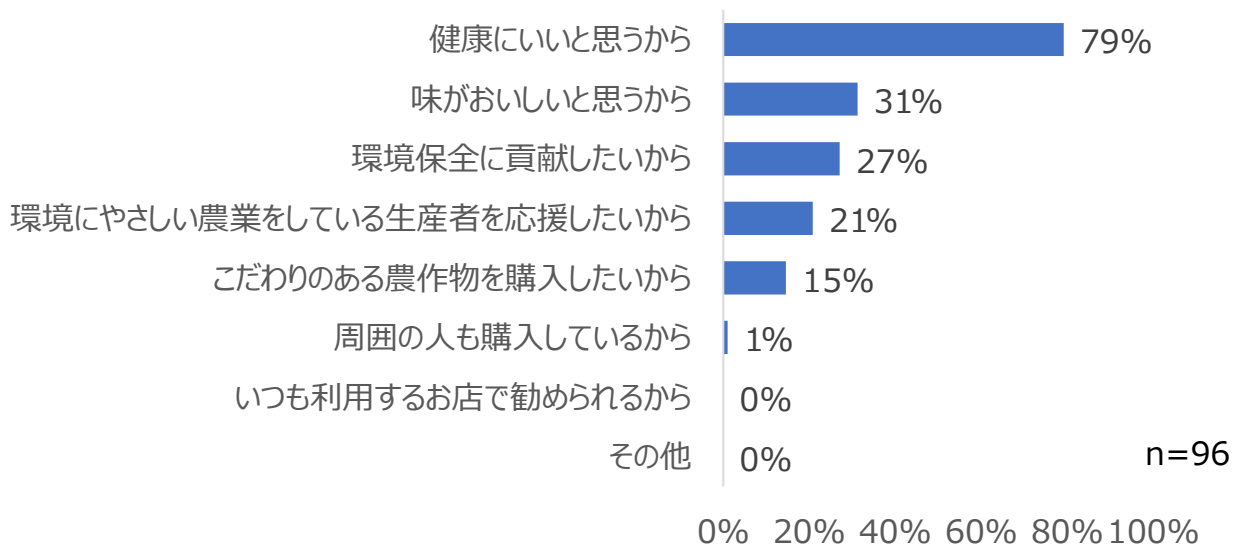
【「環境にやさしい農業により生産された農産物」の購入意向】



⑥「環境にやさしい農産物」を購入している、購入したいと思う理由について

「環境にやさしい農産物」を購入している、購入したいと思う理由についてみると、「健康にいいと思うから」が79%と最も多く、次いで「味がおいしいと思うから」が31%、「環境保全に貢献したいから」が27%となっている。

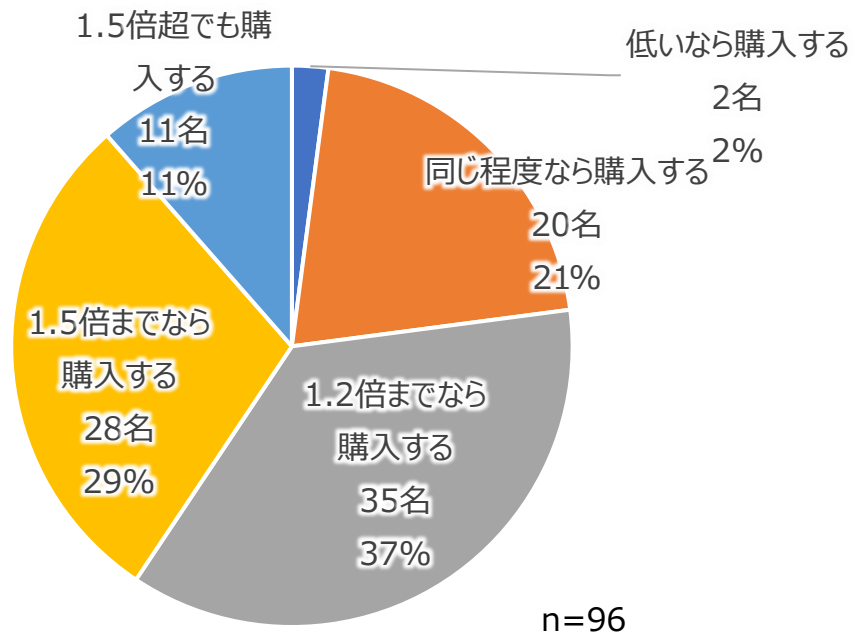
【「環境にやさしい農産物」を購入している、購入したいと思う理由】



⑦一般の農産物と比較してどのくらいの価格までなら購入するかについて

一般の農産物と比較してどのくらいの価格までなら購入するかについてみると、「1.2 倍までなら購入する」と「1.5 倍までなら購入する」、「1.5 倍超でも購入する」の割合の合計が 77%と 75%超となっている。

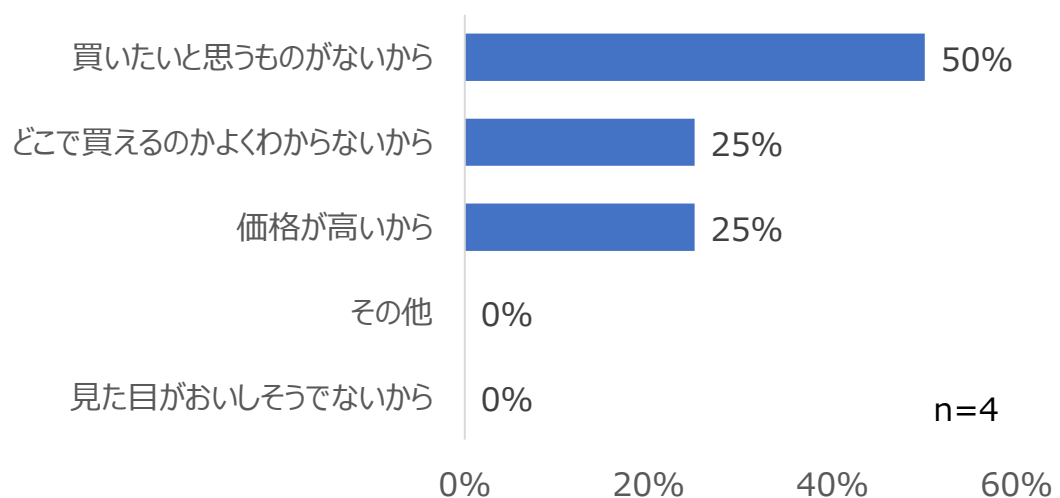
【一般の農産物と比較してどのくらいの価格までなら購入するか】



⑧「環境にやさしい農産物」を購入したいと思わない理由について

「環境にやさしい農産物」を購入したいと思わない理由についてみると、「買いたいと思うものがないから」が 50%と最も多く、次いで「どこで買えるのかよくわからないから」、「価格が高いから」が 25%となっている。

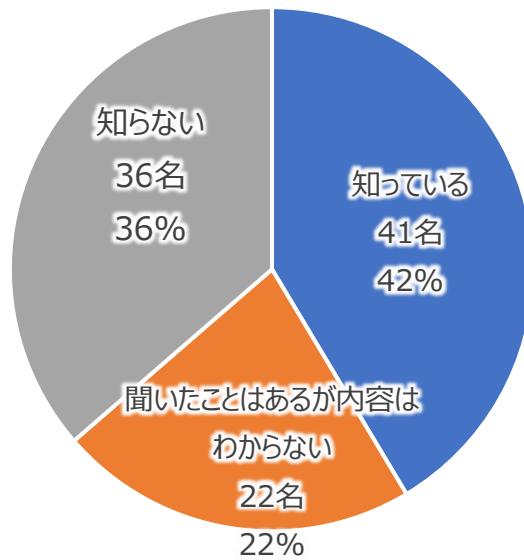
【「環境にやさしい農産物」を購入したいと思わない理由】



⑨「有機 J A S 認証」の認知度について

「有機 J A S 認証」の認知度についてみると、「知っている」が 42%と最も多く、次いで「知らない」が 36%、「聞いたことはあるが内容はわからない」が 22%となっている。

【「有機 JAS 認証」の認知度】

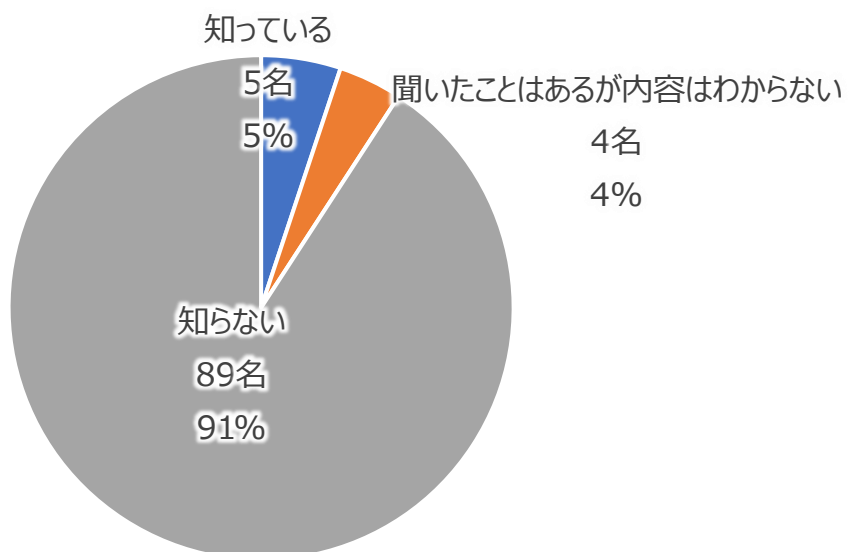


n=99

⑩「環境王国菊池生産基準」の認知度について

「環境王国菊池生産基準」の認知度についてみると、「知らない」が 91%と最も多く、「知っている」は 5%にとどまった。

【「環境王国菊池生産基準」の認知度】



n=98

